

本校のご指導をいただいている甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授 村川 雅弘先生が、『学校教育・実践ライブラリ Vol.6』の2019年10月号に書かれた文章の一部を、村川教授・ぎょうせい出版の方の許可をいただき、ご紹介させていただきます。

尚、『学校教育・実践ライブラリ Vol.6』のタイトルは

先進事例にみる これからの授業づくり

「見方・考え方」を踏まえた単元・指導案

です

(ぎょうせい 税込み1485円)

学校を挙げての不断の授業改革による子どもの変容

甲南女子大学人間科学部・教授 村川 雅弘

(前略・・・)

カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた学校改革

私の周りには諦めることなく前に進む人たちが数多くいる。淡路市立志筑小学校(山本哲也校長)の先生方もそうである。来る11月15日に全国小学校生活科・総合的な学習研究協議会の授業公開を全学級で引き受けている。

山本校長との出会いは2017年2月である。突然のメールをいただいた。「(前略)・・・生活・総合学習のフィールドや素材はあります。また、現在も当然、素材を生かして生活科・総合的な学習を行っています。しかし、もっと根本の、生活・総合でどんな力をつけたいのか。そのための手立てはどうするのがあいまいで、生活・総合の教科の特性や大きな可能性を十分生かし切れていないのが実態です。こんなことから、平成31年度の全国大会への取組を契機に、生活・総合を中心に据えて、児童の成長を目指す、学校改革・授業改革を行い、その取組の波を淡路市の全ての学校にも広めていきたいと考えています。・・・(後略)」と綴られていた。「全国大会への取組を契機に」と「取組の波を淡路市の全ての学校にも広めていきたい」に共感した。

学校の研究指導の際には、研究指定はきっかけであると言い続けている。生活科や総合的な学習の時間、国語や算数などの教科、道徳教育やキャリア教育、ICT教育など、どのような教科等やテーマの研究指定を受けようとも、その学校の授業全体が変わらなければならない。また、成果があった取り組みは指定終了後も継続・発展していかなければ意味がない。

指定校の一人勝ちではなく県内や市内の学校への還元を並行して行う。先生方には人事異動というシステムがある。有効な取り組みを行っても異動先で実現できなければ勿体ない。何よりも県や市町村全体が伸びていくことが理想である。このことは教育委員会にも提案することが多い。高知県の探学的な授業づくりや大分県佐伯市のふるさと創生にかかわった際にも、現在かかわっている

広島県尾道市や広島県大崎上島町でも言い続けている。

山本校長はこの2点を強調された。その意に賛同し、翌月3月の講話「生活科・総合的な学習で児童を伸ばし、学校を変える～新しい学習指導要領の目指すものー生活・総合は何を担うー」以来、年に4、5回のペースでかかわってきた。

その年の6月に研究推進部との顔合わせを行った。事前に送られてきた協議事項は資料1に示す通りである。実態に基づく教育目標の設定、その実現のためのカリキュラム開発とその具体としての授業づくり、PDCAの鍵を握る授業研究、外国語活動の時間確保との兼ね合い、地域との連携など、既にカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた課題が具体的に示されていた。山本校長を筆頭に先生方の強い意気込みを感じた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①生活・総合的な学習の時間の授業について<ul style="list-style-type: none">・めざす子ども像の策定方法・研究の進め方②カリキュラムについて<ul style="list-style-type: none">・体系的なカリキュラムや学年でつけるべき力・地域との連携についての考え方③その他<ul style="list-style-type: none">・「深い学び、主体的な学び、対話的な学び」のアウトライン・31年度に向けて研究を進めるうえでのキーワード④外国語活動の総合の時間の利用の是非⑤今後の計画について<ul style="list-style-type: none">・夏休みの職員研修の時期・内容・2学期からの授業研究の進め方・授業研究の視点 |
|--|

9月の校内研修に淡路市内の小学校にも参加を呼びかけている。その時の講演テーマは、「新学習指導要領で目指す生活科・総合的な学習の時間」で、「生活科と総合的な学習の時間の年間指導計画の年度途中の見直し」ワークショップも行っている。なお、2019年1月の『サクスタ』『サクスタ2』の製作者である八弮明美教諭を招いてのスタート・カリキュラムに関する校内研修でも近隣の小学校に広く呼びかけ、十数校からの参加を得ている。初めて山本校長にお会いした際の「志筑小を中心に生活・総合で学校・地域が変わり、淡路島が活性化するといい」という言葉をずっと大事にしている。常に淡路島全体を見据えて取り組まれている。

不断の授業改革による子どもの変容を糧に突き進む

2018年1月の山本校長からのメールの一部を紹介する。

「本日、31名全員揃って職員写真を撮りました。大変寒い日で、時より強い風も吹き、髪も乱れがちでしたが、とり終わったときに自然と拍手が起こりました。たかが職員記念写真、されど職員記念写真です。志筑小学校は、学級崩壊のクラスが多く、職員が目を見離さないで注意しておかなければならず、全職員が集まって職員写真をとるなどということはここ何年か考えられませんでした。だからこそ、小さな一歩でしたがされど一歩だったのです。」「やっと、主体的に学ぶ児童の姿や教師が授業を変えることについて学びの入り口に立てたという思いです。まだまだ、1時間の授業を公開するためには、理論の整理や子どもを育て高めておくこと、教師の教材づくりとカリキュラムづくりなど、やるべきことや越えなければならないハードルは山ほどあります。しかし、着実に前進し続けたいと思いました。」

同じ日のメールには、「先ほどのメールに引き続きです。人権教育研修会の授業公開を行いました。約80人の方々がお越しになり、掃除をする姿とともに、児童のあいさつの様子も見ていただきました。2年生の教室では、教師の問いかけに勢いよく挙手をする子供たち。教師が初めの児童を指名しただけで、次々と発表が繋がっていきました。時折はさむ先生の言葉や友達の言葉に、「はぁ～ん・・・。そうそう・・・。へえ～・・・。」など、児童の反応やつぶやきが聞こえてきて、自

分事として主体的に授業に取り組んでいる子供の様子が伝わって、教室中があっただかい気持ちで満たされていました。この授業を行ったのは、新卒2年目の臨時講師。子どもも教師もよく成長してくれたと思うと、嬉しくてうれしくて……。各階のトイレのスリッパが素晴らしくきちんと並んでいたこと。自習をしている多くのクラスの子供たちが、真剣に自習をしていることなど……。どこを見ても、嬉しくて嬉しくて……。そういったことがあって、全体会のあいさつで、涙があふれて声がつまって話せなくなっていました。恥ずかしいというより、校長冥利に尽きる出来事でした。」(一部割愛)と綴られてあった。私も少し涙ぐんでしまった。「研究者冥利に尽きる」

2019年3月。「うれしいなあと思うことがあったのでメールをしました。明日(15日)が卒業式予行。20日が本番です。これまでの卒業式練習のように時間を多くとっているわけではないのに、待つ姿勢、話の聞き方、呼びかけの声、歌声など、どれをとってもびっくりするぐらいの立派な様子でした。学級づくり・学習訓練、生活・総合を中心とする体験や表現活動をもとにした学び、自分事として考え取り組む主体的な力、そして、「6年生に最高の卒業式を・・・」「日本一の卒業式を・・・」というような学校全体の空気感。これまでの日々の指導で培ってきた力が、今日のこんな児童の姿につながったのではないかと思うと、嬉しくて嬉しくて……。一人ホワイトボードの陰に行き、ハンカチで涙をぬぐっていました。こんな瞬間が、校長としての最高の時間だなあとつくづく感じます。これらのことは、先生方のご指導のもと、生活・総合をしっかりと取り組むことができてきたおかげだと心から感謝しております。」

2019年4月。「どのクラスもいい形でスタートできています。学校の雰囲気ややる気に満ちながら、ピリッと引き締まっているような感じです。さっそく朝のスピーチタイムに、6年の児童の発表の様子を5年の子どもたちに見せていました。6年生はいつもよりはりきり、良いお手本になりました。「6年生のスピーチタイムを見て、どんなことに気づきましたか。どんなことが勉強になりましたか。」とその場で5年生に振り返りをさせ、6年生にも5年生にも学びを意識させ、子供たちを一段高みへ上げていました。1年生は学校探検1回目を行い、2年生は春みつけに志筑神社まで出かけていました。昨年度の今頃は、まだそれどころではなく、全く動き出せていない状態だったので、やはり、3月28日は大きな初めの第一歩でした。ありがとうございました。」

3月28日の研修の様子は本誌4月号に紹介した。このような形で実を結んでいる。8月には1学期の取り組みを踏まえ、2学期以降の展開及び公開当日の指導案検討を行った。どの学年もお勧めである。各学年共に前後連続の授業を公開する。夜は私たち講師と授業者、参観者が一同に会し淡路島の幸を楽しむ催しもある。國學院大学の田村学先生と参加予定である。実り多き一日となるであろう。多くの先生方との出会いを楽しみにしている。

～研究会ご参加の先生方へのお誘い～

11月15日(金)は、講師を囲んで淡路島でもう一泊！ 大いに生活科・総合的な学習について語り・交流しませんか？

本校の全体指導をして頂いている甲南女子大学 村川雅弘教授から、志筑小学校の授業公開が終わった後で、三人の講師（村川先生、関西福祉科学大学の馬野範雄教授・武庫川女子大学の酒井達哉准教授）、志筑小の職員（可能な先生）と、全国各地より参観にお越しいただいた先生方とで、**美味しい料理とお酒を酌み交わしながら、熱く語り学び合える夕食交流会をやりましょう！！**と、ご提案をいただきました。

そこで、志筑小学校長の山本が自信をもって下記の通り計画いたしました。つきましては、振るってご参加いただけますようご案内申し上げます。

尚、当日は朝から國學院大學人間開発学部初等教育学科教授の田村学先生に淡路にお越しいただき、研究会にご参加いただくと共に、夕食交流会にご参加いただけます！！

記

1. 宿泊・交流会会場（志筑小より徒歩約5分）

淡路島 津名ハイツ 〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 162
Tel 0799-62-1561

2. 費用

宿泊1泊2食（夕食飲み放題付き）11420円（税込み）

*夕食交流会のみの参加

料理代+飲み放題 7000円（税込み）

*料理は四季会席のプランです！

3. その他

- ・現在定員を先着50名としております。

（第3次締め切り 10月11日（金曜日）

申し込まれる方は、下記にご記入の上、FAX(0799-62-0016)にてお申込みください。

*お問い合わせや、Faxから1週間経っても申し込み完了の連絡がない場合は、志筑小校長 山本までご連絡ください。（志筑小学校 0799-62-0051）宜しく願いいたします。



講師を囲んで淡路島で交流会ともう一泊 申込書

FAX 申し込み先 (0799-62-0016)

問い合わせ ☎ 0799-62-0051

メール申し込み先 tetsuya_yamamoto@awaji.ed.jp

淡路市立志筑小学校長 山本哲也まで

申し込み表（1名～2名様用）*3名以上で申し込まれる場合は、欄を増やしていただいても構いません。

| 県 | 学校名 | 職 | 氏名 | 参加は○・参加しないは× |
|-----|-----|---|----|--------------|
| | | | | 1. 交流会 2. 宿泊 |
| 連絡先 | 電話（ | | ） | メール（ |
| | | | | ） |
| | | | | 1. 交流会 2. 宿泊 |
| 連絡先 | 電話（ | | ） | メール（ |
| | | | | ） |

通信欄

淡路市立志筑小学校の学校紹介

兵庫県淡路市立志筑小学校 校長 山本 哲也

はじめに

本日は、志筑小学校の学校紹介ページをご覧いただき、大変光栄に思います。

本校は、今年の11月14日（木）・15日（金）に行われる、第28回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会兵庫大会の会場校3校うちの1校の学校です。

本校は、決して研究校ではありませんでしたが、平成29年度から「2020年に全面実施される新学習指導要領がめざす子供の姿と学びの道筋を明らかにし、教育の『変わる』を全国に発信すること」を目標に、甲南女子大学 村川雅弘教授のご指導のもと、関西福祉科学大学 馬野範雄教授・武庫川女子大学 酒井達哉准教授、赤穂市の矢根久美先生、そして、新宮小学校 石堂 裕教諭をはじめ多くの先生方にご指導をいただき、取組を積み上げてきました。

また、昨年9月には、文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 渋谷 一典先生にお越しいただき、全クラス参観と助言・講話によるご指導をいただきました。

これらの取組の成果により、自然・歴史・人などの淡路市の豊かな材に向き合い、人権教育をベースに、生活・総合の指導を縦に貫いて、確かな「変わる」を積み上げ、まさに「子供が変わる 教師が変わる 学校・地域が変わる」の手ごたえを感じながら、さらに高みを目指して教育をおこなっているところです。

特別な研究校ではない普通の学校が、生活・総合を中心としてどのように変わってきたのか、本校が歩んだ「子供 教師 学校・地域が変わる姿」を是非ご覧いただき、様々なご意見・ご指導をいただきながら、共に「本物の教育を目指した学び合いの機会」をいただければと思います。

第1日目の神戸からはチャーターバスも出ておりますので、明石海峡大橋でつながる兵庫の南端の淡路島へ是非お越しいただけますようお願いいたします。

尚、当日の研究会の後に、“6. お知らせ”にありますように、3人の講師先生をはじめ、田村学先生（予定）・石堂裕先生と懇親会と宿泊を計画しております。合わせてご参加いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

*本校へのアクセス・駐車場等の細かいご案内は、8月上旬をめどにこの学校紹介ページにアップしてお知らせする予定です。



< ページ案内（目次） >

1. NO.1 学校紹介・学校経営方針等
2. NO.2 H31新年度のスタートに際して
3. NO.3 H28・29・30年度を取組
～平成30年度日教弘教育賞 応募論文より～
4. NO.4 H30年度プレ大会の様子
5. NO.5-1～3 人権研修会の授業公開の様子と
人権・生指部会ニュース ホットひと息35杯・36杯
6. お知らせ) 講師の先生方を囲んで”懇親会と宿泊”のご案内

お問い合わせ先) 0799-62-0051 (志筑小学校 校長 山本まで)

メールアドレス : tetsuya_yamamoto@awaji.ed.jp

学校紹介

兵庫県淡路市立

志筑小学校



住所 兵庫県淡路市志筑1578
電話 0799-62-0051
FAX 0799-62-0016
E-mail shiduki-es@awaji.ed.jp

学校規模 <平成31年5月1日現在>

13学級(内 特支知的1) 児童数398名 全職員数32名

1. 志筑小学校の場所及びアクセス



11月15日(金)全国大会2日目のアクセス

1. チャーターバス利用 (貸し切り)

「各ホテル前」から、「志筑小学校」まで直通の大型バス2台運行予定

2. 高速バス利用 (淡路交通、神姫バス、山陽バス・JRバス)

*JRバスの三宮BTはミント神戸から。その他は、三ノ宮駅東端のバスターミナルから「高速舞子バス停」から「津名港BT」まで約35分。徒歩約12分
神戸「三宮BT」から「津名港BT」まで約60分。徒歩約12分

11月15日は、「津名港BT」 ↔ 「志筑小学校」間に、無料送迎バスを運行します!!

車利用

神戸淡路鳴門自動車道・津名一宮I.C.より約7分。

2. 校区の概要

本校は大阪湾に面する淡路島中央東岸にあり、宝珠川が志筑川に合流する河口付近に位置する。校区である志筑地区は昔から住宅地や様々な店が集まっており、津名地区の中心地として発展してきた。また、埋立地や国道28号線沿いには大型店舗や新しい店舗が進出している。

淡路市の小学校の中で児童数・職員数が最も多く、また教育に対する地域住民の関心は高く、学校に寄せる期待は大きい。

3. 学校の沿革

| | |
|----------|---------------------------------|
| 明治 6年 8月 | 静村小学校として天神に開設 |
| 明治 7年 8月 | 志筑小学校として円満寺に分離独立 |
| 明治 8年 4月 | 引摂寺に移転 |
| 明治10年12月 | 字連堵へ校舎新築移転 |
| 明治17年 4月 | 静村小学校を統合し一村一校となる |
| 明治20年 4月 | 志筑尋常小学校と改称 |
| 明治25年11月 | 字連堵へ校舎改築移転 |
| 明治35年11月 | 船橋へ校舎改築移転 |
| 明治40年 4月 | 志筑尋常小学校と志筑高等小学校が合併し志筑尋常高等小学校となる |
| 昭和16年 4月 | 志筑国民学校と改称 |
| 昭和22年 4月 | 志筑町立志筑小学校と改称 |
| 昭和24年 4月 | 校舎新築 |
| 昭和30年 4月 | 町村合併により津名町立志筑小学校と改称 |
| 昭和40年 4月 | 特殊学級を設置 |
| 昭和42年10月 | 完全給食を実施 |
| 昭和45年 3月 | 体育館完成 |
| 昭和47年 4月 | プール落成 |
| 昭和52年 9月 | 校舎改築第一期工事竣工 |
| 昭和54年 4月 | 校舎改築第二期工事竣工 |
| 平成 7年 1月 | 阪神・淡路大震災により校舎及び体育館が損壊 |
| 平成 8年 4月 | 校舎・体育館外装補修 運動場改修 |
| 平成11年 2月 | パソコン教室完成 |
| 平成13年 3月 | 体育館床改修 |
| 平成14年 2月 | 第二運動場フェンス設置 |
| 平成17年 4月 | 町合併に伴い淡路市立志筑小学校と改称 |
| 平成20年 1月 | 体育館耐震・大規模改修工事 |
| 平成22年 8月 | 太陽光発電システム設置 |
| 平成26年 3月 | 校舎耐震・大規模改修工事 |
| 平成28年 3月 | 特別教室棟工事竣工 |

| 四 | 三 | 二 | 一 | |
|------------------------|------------------------|----------------------------|------------------------|--|
| いざや 励まん | 学びの 技をえ | 若き いのち を | 我々が むねに 送る なり | 淡路の 島の 志筑の 里の 来りて 学ぶ 我々の 望み |
| 絶え 間なく | つと むべし | 送る なり | 絶え 間なく | 真中 なる 学び 舎に 六百 の いや 遠し |
| わが は国 の道 を | 朝な 夕な に | 我々が むねに 送る なり | 波の おと | |
| 自治 の光 を | この 恵ま れし | 磯ち かく | | |
| やが ては 国 の | 心を きた え | 寄せて は返 す | | |
| いざ や 励 ま ん | 学び の 技 を | ちぬ の 浦 わ の | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |
| | 学 び の 技 を | 若 き い の ち を | | |
| | 心 を き た え | 我 等 が む ね に | | |
| | 朝 な 夕 な に | 若 き い の ち を | | |
| | この 恵 ま れ し | 我 等 が む ね に | | |

平成31年度 学校経営方針

1 教育目標

『日本一 人を大切にする学校』

《 校訓 》：日 新 日 進

＜今年度の重点＞

原点から、本物の教育を発信しよう！！

①日本一のクラスに！

～目標は上の学年・力を人のために～

②自分をつくる責任者！

～心のスイッチ・本気が人を成長に～

小中一貫の目標

自ら考え、協働して課題解決できる『確かな学力』を育み、心豊かで自立した子どもの育成



2 めざす児童像

- (1) 意欲を持って学ぶ子
- (2) 人のために一肌ぬげる子

3 志筑小学校の役割

- (1) 確かな学力をつける
- (2) 良き人間関係を結べる力をつける



4 六つの重点目標

- (1) 「職員一丸」(共有感)
 - ・課題の共有
 - ・取組の共有
 - ・成果の共有
- (2) 「教師の確かな見取りと勇気づけ」
 - ・児童一人一人の学びと成長を見逃さない
 - ・期待をかけ認めてボイスシャワー
- (3) 「リーダーを育て、集団を育てる」
 - ・集団のために自ら動こうとする姿勢の醸成
- (4) 「子どもたちの思考を深め、楽しい授業づくり」
 - ・主体的対話的で深い学びの授業づくり
- (5) 「ふるさと・夢・自立を育てる」
 - ・生活科・総合的な学習の充実
 - ・人権教育の充実
 - ・キャリア教育の充実
- (6) 「地域と連携した学校力の向上・児童の育成」
 - ・地域と社会に開かれた教育課程と教育の推進

5 校内研修を核として

研究主題 「一人ひとりが主体的に探究する授業の創造」

～地域から学び ふるさとの心を寄せ続ける子どもをめざして～

6 学校経営における5つの柱

～「安全・安心・確かな学力・自立・心と体」～

- (1) 児童の命と安全を守る安全教育を進める
- (2) 子どもたちが安心してがんばれる居場所をつくる
- (3) 確かな学力を育成する
- (4) 児童の主体性を育て、自立を促す
- (5) 心と体を磨く



(志筑小学校職員の皆さんへ)

～新年度のスタートに際して～

新年度がスタートしました。

H28 年度から学校教育目標「日本一人を大切に作る学校」をめざして、ホップ・ステップ・ジャンプで取り組んで参りました。

そして、いよいよ令和元年の今年度は、「原点と発信」。

原点とは、これまでの3年間に、児童一人一人に期待をかけ・認めながら、「①意図的なボイスシャワー ②「聞く」ことの指導 ③リーダーを育てる」に重点を置いて、人権教育をベースに取り組んできたことです。

この原点に戻って、学級経営・学年経営を大切にしながら、本物の教育を目指す「志筑小の取組を発信！」していくのが今年度です。

11月15日には、全国小学校生活科・総合的な学習研究協議会の授業公開が本校であります。全国からたくさんの先生方にお越しいただき、志筑小の取組と児童の様子を見ていただきます。まさに、志筑小学校の「子供が変わる・教師が変わる・学校地域が変わる姿」をご覧ください。これが大きな目標となる発信です。

この発信したことについては、アンケートなどを活用して取組への評価をいただきながら、本来の意味で「志筑小学校の本物の教育を目指す取組」や児童や地域と目標を共有して取り組んできた「日本一人を大切に作る学校の取組」の評価に役立てていきたいと考えています。大きな研究会があることで、先生方にはご苦勞をおかけいたしますが、是非この機会を教師力を磨く絶好の機会としていただくとともに、それぞれが理想とする本物の教育を推進できる志筑小学校を実現していく良いチャンスと考え、チーム一丸、力を合わせて前進していきましょう。

尚、児童一人一人を大切に作る教育の忘れてはならない資料として、「少年とある女性教師の話」を添付しておきます。(雑誌 致知より)

志筑小の共に歩みを進める先生方。

どうか「子供は星」の詩のごとく、児童一人一人を大切に子どもたちに向かい合っていて欲しいと願っています。よろしくお願いいたします。

～子供は星～(東井義雄先生の言葉より)

「どの子も 子どもは星。みんなそれぞれが、それぞれの光をいただいてまばたきしている。僕の光を見てくださいとまばたきしている。私の光も見てくださいとまばたきしている。光を見てやろう。まばたきに伝えてやろう。」

みんなで乗り越えた先の景色を楽しみに頑張りましょう！

4月1日 志筑小学校長 山本 哲也

「教師が変わる、子どもが変わる、学校・地域が変わる」

～日本一人を大切にしている学校の挑戦！～

兵庫県淡路市立志筑小学校

校長 山本 哲也

1 はじめに

平成30年1月26日、卒業アルバム用の職員写真を全職員で撮影し終えたとき、自然と拍手が鳴り出した。不思議に思い職員に尋ねると、「ここ数年児童を教室に残したままにして職員写真がとれませんでした。やっとここまで来たんだなあと思うとうれしくなって・・・。」という答えが返ってきた。

振り返ってみると、平成28年度に私が校長として赴任したばかりの本校は、始業のチャイムが鳴っても砂場に数人が遊んでおり、教師が針のむしろの上で必死に授業をしているような学校であった。また、終業式は体育館に全校生を集めると収拾がつかないので、教室に座らせて校内放送でおこなうなど、多くの課題をかかえて落ち着かない学校だった。

職員はとても真面目で、崩壊に近い本校で粘り強く耐え抜いていたが、一生懸命がんばっているのにどん底から抜け出せないでいた。私は、校長として、畔から眺めるのではなく、この職員と共に「泥田」の中で共に取組もうと強く思ったことを思い出す。

児童を見てみると、集団としての意識が薄く、自分のことしか考えない。どちらかといえば「群れ」であり、「どうせ俺らが悪いんやろ。」が口癖で、教師の言うことはどこか斜めに受け止めていた。

児童養護施設から通う子もおり、厳しい思いをして学校に来ている児童もいた。また、学級という集団の中に正義や思いやりが薄く、面白いことや楽なことに流されてしまう児童を、必死になって教師が食い止めているようであった。

落ち着かない子どもたちも、人間関係がぎくしゃくして心を傷つけたり傷つけられたりしている児童も、荒れの中で心を痛めながらなんとかしたいと思っている児童も、そんな一人ひとりを大切にしながら、誰もが安心して自己実現を図れる学校にしていきたいと、強く決意したものであった。

そんな、本校の今年は、全学年2クラスに特別支援学級1つの計13学級。児童数は380名の淡路市では一番人数の多い学校である。

2. 「教師が変わる、子どもが変わる、学校地域が変わる」—その1— (平成28年・29年度の取組)

全職員と取り組んだことは、大きく次の5点。

- ① 児童と職員が共に目指す目標を持つ
- ② 児童を信じ、期待をかける
意図的なボイスシャワーの取組
- ③ リーダーを育て、集団を創る
- ④ 「聞く」の一点突破
- ⑤ チャイム着席の取組

(1) 児童と職員が共に目指す目標を持つ

～学校目標は「日本一人を大切にしている学校」～

平成28年度、朝会の様子にも少し向上が見られるようになった5月、児童朝会で、学校目標を子どもたちに投げかけた。学校目標は「人を大切にしている学校」にしたい。この「人を大切にしている」の人とは、「みんな」のことであり、「自分」のことである。みんなの力で、「どの子も安心して自己実現を図れる学校を目ざそう。」「淡路島で一番の、人を大切にしている学校にしよう。」と・・・。

すると、子どもたちから、日本一、いや世界一にしたいという発言があり、最終的に、「日本一人を大切にしている学校」を創るという、全児童と教師集団の共通の目標ができた。

(2) 児童を信じ、期待をかける

このころ、チャイムが鳴っても教室に入らない児童



が数名いた。この子たちは何を訴えようとしているのか。本人たちも分からなかったのかも

しれないが、教室に入ろうと誘いに行くと、高いフェンスに登り、まるで鬼ごっこのように、関わろうとする教師の心をえぐる言動をあげせる。

しかし、「この子たちに期待をかけよう、決して切り捨てるまい。日本一人を大切にしている学校なのだから・・・」と職員で共通理解のもとで取り組んだ。

まず、この子たちの力を借りて、学校目標の横断

幕をつくることにした。子どもたちに提案すると始めはめんどくさそうにしていた子も、熱心に色を塗り、渡り廊下に貼り付けることができた。その時「ありがとう」と声をかけると、照れくさそうに笑っていた姿が忘れられない。

それからもしばらくは、以前と同じように砂場でたむろしていた彼らは、そのうち一人教室へ戻り、また一人と時間をかけて自分たちの居場所へ戻っていった。

最後まで教室に入りにくかった児童も、中学校で



は、クラスの仲間と学べていると聞く。

どの子も認めてもらいたい。成長したいと願っている。まず、教師が、一人ひとりの

子どもに期待をかけ、信じることこそが、教育のスタートであると改めて痛感した。

(3) リーダーを育て、集団を創る。

平成28年4月15日、学級開きの黄金の三日間は既に過ぎていたが、藁をもすがる思いで、赤穂市在住の矢根先生を講師にお呼びし、学級づくり・学習集団づくりの研修会を持った。まず、ご指導いただいたのは、学校の役割と集団作りのために良きリーダーを育てる必要があるということであった。

学校の役割は二つ

- ① 学力をつける
- ② 良き人間関係を結べる力をつける

<集団>

リーダーがいる
人格で統率
みんなのために

<群れ>

ボスがいる
力で統率
自分のために

○絵本「リンゴが食べたいねずみくん」を使ったクラスのバックボーンづくり。

- ・誰かと力を合わせれば必ず願いが叶う。「あきらめてはいけない。」
- ・自分の持っている力を人のために使ってこそ本物。「人のために人肌ぬぐ子になりなさい。」

この指導の後、各学級・児童朝会でも「リンゴが食べたいねずみくん」の絵本の話をして、「日本一人を大切にする学校」になるためには、「自分を高めること」と「人のために人肌ぬぐる子になること」

であると宣言し、二つの柱(バックボーン)を子ども達にも先生達にも共通にした。

この後、自分のことしか考えない行動には、「人のために人肌ぬぐる子になる」だったでしょと指導を入れ、だれかお手伝いしてというと、「僕がします。私がします。」と先を争って力を貸してくれるようになってきた。教師は、褒める側にまわって適切なボイスシャワーがかけられるよい回転ができた。

(4) 「聞く」の一点突破

児童の実態を見たとき、自分の話や意見を聞いて欲しいという気持ちは強いが、人の話を聞くということがとても苦手な様子であった。全校朝会では、毎回研修担当教師が、「聞く」の話をし、聞くことが人を大切にする、人を成長させることを根気強く説いた。また、各教室でも、「聞くの一点突破」と声をかけ続けた。チームで一点突破を目指すことは、着実に効果を生むことが、その後の児童朝会の子どもの姿に現れるようになってきた。

(5) チャイム着席の取組から

平成29年度の1学期も終わりになり、生徒指導部で取組の反省をしていた時のことである。「最近チャイム着席がしっかりとできるようになってきた。」というある教師のふりかえりに、別の教師が、「なぜできるようになってきたのかの方が大事ではないか。」と鋭く切り返した。そこで、その場にいた全員で考え導き出した答えが、「必ず教師が先に教室で待っている。」「放送で、チャイムが鳴る少し前に知らせている。」の二つであった。

当然、次の日の職員打ち合わせでの報告では、チャイム着席がしっかりとできるようになってきたことの報告だけではなく、教師が必ず先に教室で待っていることへの価値づけと、放送委員会へのお礼が述べられた。できたことだけ評価するのではなく、そのわけを共有することが、本当は大切なのだということを改めて学んだ。

「本物はつづく。続ければ本物になる。」これからも理由を共有しながら続けていく。

3. 平成28年・29年度2年間の

「教師が変わる、子どもが変わる、学校地域が変わる」

(1) 自信を持って指導する教師への変容

どの子にも期待をかけて認めながら、一人ひとりの良さをみつけてボイスシャワーをしようとする

る姿が見られる。また、全ての教師が、明確に同じ目標を持ち、学校の二つの役割と、「自分を高める」・「人のために人肌ぬげる子になる」の二つの柱をしっかりと共有することができた。

このため、児童や保護者に対して、決してぶれることなく、自信を持って対応する姿が見られる。

(2) 学習集団・学校集団を創る子どもたちの変容

これまででは、自分のことだけ考え、楽しかったり面白かったりすることが価値と考えていた児童が、6年生は全校生のリーダーを意識した行動に。下の学年は、6年生を尊敬したり手本にした

りするようになってきた。また、6年生が、一年生の学級に出向き、世話を焼く微笑ましい姿も



見られるようになった。

(3) 学校が変わると地域とのつながりが強化、地域が応援団へと変容

保護者は、ほんの少し子どもたちの様子が変わると、良くなってきたと褒めてくれた。地域も、「子どもの未来応援プロジェクト」と題して、様々に学校に力を貸してくれるようになった。

そして地域も、子どもたちを応援しながら学校とのつながりを深め、地域自身も活性化していつている。



4. これからこそが、本当の挑戦

さて、2年を過ぎ、学校は落ち着きを見せ、荒れる前の学校の姿が戻ってきた。しかし、本当にここがゴールでよいのだろうか。今まで2年間の取組は勿論これからも大切に続けていく。しかし、この取組を続けた先に、本当に「目指す教師像・児童像・学校地域の姿」があるのだろうか。自問自答を繰り返すうち、私達の出した答えはノーであった。

子どもたち一人ひとりが見えない場所にしまい込んでいる宝物を探し当て、掘り起こし磨きをかけることが教育であるなら……。これから大きく変わる社会を生き抜く子どもたち一人ひとりに、本当の

力をつける教育を目指すのであるなら……。

深く学んだことを自分の成長や生き方・社会に生かす学力を目指すのであるなら……。

このように考えたとき、ここからこそが、「日本一人を大切に学校の本当の挑戦」であることに気付かされたからである。

そして、3年目の挑戦として目指すべきは、新たな「教師が変わる＝授業を変える」、「子どもが変わる＝主体的・対話的に深く学ぶ子供になる」、「学校地域が変わる＝学校が地域と目標を共有して、地域と共に児童を育て、育てた児童が地域に発信したり、地域や社会に学びを生かそうとしたりする」である。

これらの“3つの変わる”を目指した、3年目の挑戦が平成30年度の取組として始まった。

5. 「教師が変わる、子どもが変わる、学校地域が変わる」—新たな挑戦—(平成30年度の取組)

(1) 校内研修の取組

研修テーマ)

一人ひとりが主体的に探究する授業の創造
～地域から学び、ふるさにと

心寄せ続ける子どもをめざして～

まず、取り組んだのは「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり。これこそ授業を変え、子どもを変えることにつながると考えた。

そこで、全員でアプローチする教科を生活科・総合的な学習、人権学習に絞り込み、授業改善に取り組むこととした。

その際、これまで2年間取組続けた“聞くの一点突破”を生かし、さらに、学び合いをつなぐベースとなる“スピーチタイム”の取組を行った。

① 自分の考えや思いを語れる子にする

～毎朝のスピーチタイムの実施～

基本は、

・3つの文章で話すことから。

・友だちのスピーチを聞く。

*大切なのは、「笑顔とそだねー」

・自分たちで発表を回していく。

*相互で指名をつなぐ。

*座席は、コの字やグループ隊形

・周りの子ども達からお尋ねや感想を出しあう。

*自分事として聞き、意見や感想を持つ

☆3年生のある
学級のスピーチ
タイムから(例)



〈F君のスピーチ〉

- ・きのう、習い事の帰りに目玉もようの
ちょうを見つけました。
- ・ぼくは、どの種類のちょうかわかりません
でした。
- ・お父さんの予想で、しじみちょうの仲間だ
と思います。

〈Qおたずねや I感想・A答え〉

Q 今まで見ているちょうと違う所は何ですか。

A 「ストローのようなものがあるかないか分
らない所です。」

Q 私は目玉模様なので気持ち悪いかなあと思
いましたが、不思議な模様のちょうを見てど
う思いましたか。

A きれいだなあと思いました。

I 目玉模様のちょうは、天敵から身を守って
いるのだと思います。後でぼくと一緒に、図書
室でくわしく調べましょう。



分事として自然と
体が前のめりになっ
て聞き合う集団。

天敵の話題を出し、
一緒に図書室で調べ

ようと話す0君。きっとこの後、二人で調べたこ
とが次のスピーチにつながることでしょ。

こういう知的な好奇心に満ちた、子どもたちの
主体的な学び合いを授業の中で積み重ねていく授
業こそが、子どもの大きな変容につながるものと
確信している。

また、隣のクラ
スをのぞいてみる
と、教室中に暖か
い空気が流れ、自
然な笑顔があふれ



ていた。自分のことを語り、聞き合うこと自体が、
温かい学級集団を創り上げることに大きくつなが
ったのだと感じた。

また、5年生のクラスでは、小数点のある割算
の筆算の問題を、児童が前に出て黒板に書きなが

ら説明する場面だった。

筆算を書きながら、「まず、割る数の小数点
を二つ動かします。次に・・・」と、クラスの友
達に背中を向けて
書きながら説明す
る児童。それを、食
い入るように見つ
めて、「はい。」「そ
うですね。」などと返事をしながら聞く児童の姿
がとても頼もしく大きな成長を感じた。



スピーチタイムの取組により、主体的・対話的
で深い学びの授業を進めるベースは整ってきた。

(2) その他の校内研修の取組

〈3年目の挑戦項目〉

- ① ルーブリックを活用し、めあてとふりかえ
りをしながら、自分事の学びを創る。
- ② iPadを活用し、主体的に調べたり、まと
めたりして、発信できる子にする。
- ③ 授業の中の教師の役割は、整理し吟味をか
けて子どもたちの学び合いをさらに一段
高みにあげる役目を目指す。

それぞれの項目については、校内研修で取組を
進め、一人ひとりの児童を大切にしながらチーム
一丸となって取組んでいるところである。

6. まとめ

教師が授業を変えることは並大抵のことではない。
しかし、本物の教育というものは、教師の力で子ども
を変えるということではなく、子どもが持っている自
分を成長させ、自分を変化させる力を信じて、主体的
に学び合う場所（授業）を用意することだと考える。

そして、友達と協働し、学び合ったことを、自分の
成長や生き方、地域社会に生かすことでさらに一人ひ
とりが本物になっていくのだ。

〈PTA 新聞へのある役員さんの投稿から〉

五月に行われた運動会では、子どもたちが主体的
に動き、一生懸命に演技をしている姿に、心から「志
筑小学校に子どもたちを通わすことができ、本当
によかったな。」と本部席から見させていただきま
した。

本物はつづく。続けるから本物になる。

通わすことができよかったですと思っただけの幸
せを職員全員でかみしめながら、さらにこれからも、
「日本一人を大切に作る学校」の挑戦は続く。

平成 30 年度 自主研究発表会～生活科・総合的な学習の時間～

【日 時】平成 30 年 11 月 15 日 (木)

【日 程】

0. 校内研修 (非公開授業) 11:30～12:15

1 年 2 組 生活科 「いきものとなかよし」



3 年 2 組 総合 「志筑の自慢を歌で伝えよう」



6 年 1 組 総合 「復活！志筑子ども人形浄瑠璃」



1. 受付 (体育館) 13:15～13:40

2. 公開授業 (各教室) 13:40～14:25

2 年 2 組 生活科 「しづきのステキ 大はっけん」



4年2組 総合「だれもが住みよい町づくりプロジェクト～パート2～」



5年2組 総合「町の人々の安心につながる防災マップを作ろう」



3. 移動 14:25～14:40

4. 分科会〔授業リフレクション〕(新校舎) 14:40～15:50

○グループワークによる討議形式

| 低学年部会 | 中学年部会 | 高学年部会 |
|---------------------------|---------------------------|-------------------------|
| 助言者 馬野 範雄 (関西福祉科学大学教授) | 助言者 酒井 達哉 (武庫川女子大学准教授) | 助言者 村川 雅弘 (甲南女子大学教授) |
| | | |

5. 移動 15:50～16:00

6. 全体会〔分科会報告及び指導講評〕 16:00～16:45

・各部会報告

<低学年部会 馬野 範雄教授(関西福祉科学大学)>

どの子供たちも生き生きと活動しており、グループ活動でも積極的に参加している姿があった。「どんな内容を、誰に、どのような方法で伝えたいか。」をしっかりと考えられていた。「いろんな意見があるね。」で終わるのではなく、さらに話し合いが進められていることが素晴らしかった。各グループからの意見が見える板書になっており、発表後は「あのグループのこんなところがいいね。」とか「自分たちの考えとこういうところが違うね。」「ここが似ているね。」と比較し意見交流が行わ

れている。そして、本時の目標にせまる話し合いに進み、考えが深められることができていた。

<中学年部会 酒井 達哉准教授（武庫川女子大学）>

素材が良い。福祉は心で感じ、人とのふれあいが大事である。様々な人との交流体験活動を通して、子供たちの課題意識が醸成されていた。思考ツールを使って、伝えたいことを一つにしぼっていく方法はよい。ただ今回は少し時間が足りなかったので配当時間の工夫が要る。思考ツールを十分に活用していくためには、まずは話す力が要る。

そして聞く力、さらに話を進める力。だんだんと建設的な考えで進めていけるようになる。そうなるためにも、いかに学び合える集団につくり上げていくかが大事となる。

<高学年部会 村川 雅弘教授（甲南女子大学）>

総合では豊かな体験活動に基づいた「自分たちの地域を何とかしたい。」という強い思いが大事になってくる。自分たちが作った防災マップを生かして地域に貢献したいという思いは、実は前年度の学びとつながっているのである。他教科での学び、生活科からの積み上げが大切である。今回の授業では思考ツール（座標軸）を使っての活動であった。

グループから全体へもっていく際に、意見の絞り込みが十分でなかった。絞り込みをしていく中で、子供たちが学びを深めていけるようにすることが課題。

【総括指導講評 村川 雅弘教授（甲南女子大学）】

○ループリックについて

ループリックは資質能力と関係しており、総合的な学習ではずっと大事にしてきた部分である。単元計画や本時案をしっかりとたて、本時案に評価規準を盛り込むことでループリックが見えてくるのではないかと思う。

○ICT 活用について

淡路市では4年生以上に一人一台の iPad が配布されている。とても便利なものではあるが、無理な活用をするのではなくて、活用の仕方を考え、効果的な使い方でのいいのではと考える。

○環境・掲示物について

学びの足跡が分かりやすいものであること。どのような活動を通して子どもたちがどんな課題を持つようになったのか、どんな方法で解決しようとしてきたのかなど、それまでの学びが見て分かるものを掲示し、学びの環境を整えていくことが大事である。また、それらを今後の授業で活用していけるものが良い。3メートル離れているところからでも見やすいものにする工夫が要るだろう。

別添1 1月15日 「生活科を中心としたスタートカリキュラムの作成と実施」

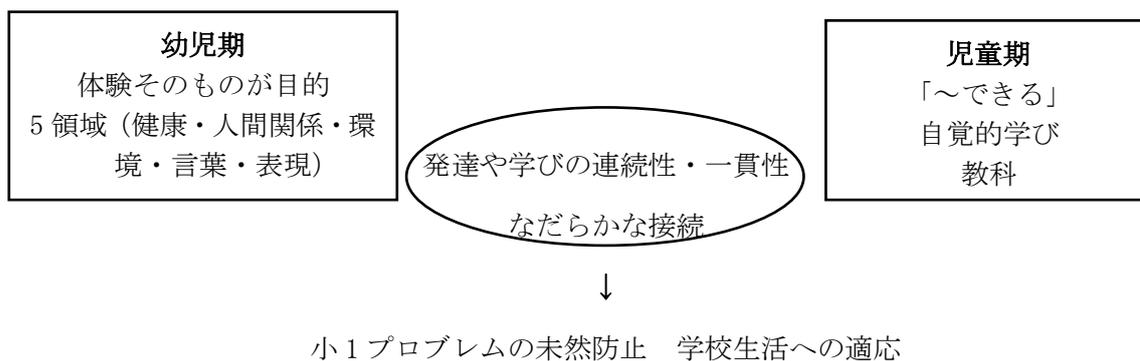
平成31年1月15日に、志筑小学校を研修会場として淡路地区三市の小学校生活科担当者を対象にスタートカリキュラムの研修会を開催した。

講師・・・甲南女子大学 村川雅弘教授
愛知県知多市立東部中学校 八劔明美教諭

以下が研修内容である。

- 幼小接続
- | | | |
|-----------|---|--|
| 接続期カリキュラム | } | アプローチカリキュラム・・・5歳児のカリキュラム |
| | | スタートカリキュラム・・・小学校入学直後に実施される特別な合科的・関連的カリキュラム |

- なぜスタートカリキュラムが必要か



- 連携 と 接続

・連携・・・保育所・幼稚園と学校、教師・保育士と教師、子どもと子どもがともに手をつなぎ歩く。

・接続・・・幼児期の教育から児童期の教育へ、うまくバトンをわたすこと。

3つのつなぐ（カリキュラム、活動、子どもの姿）と、それを支える行政の役割が重要である。

入学説明会や参観日などを活用し、現在実施していることに意味づけをしていく。

◆活動をつなぐ

（例）給食体験・・・保育園児を学校の給食に招待する。1年生の間に幼児を座らせる

など、不安をなくす机の配置をしたり、名前が入ったランチョンマットを用意したりする。全校体制で受け入れをする。保護者も参観してもよいが見守り方を考慮してもらう。

授業参観・・・小学校の授業を幼児が参観する。複数の教科を公開する。

◆子どもの姿をつなぐ

- ・保育要録
- ・幼保小情報交換会
- ・就学前健診と入学説明会

→個表による情報共有、新担任への確実な情報伝達と支援、人間関係を重視した学級編成

◆カリキュラムをつなぐ

これからの接続は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かう資質・能力を接続・育成することを目指す。

幼児期の教育・・・方向目標「～ようになる」児童期の教育・・・到達目標「～できる」スタート期においても環境構成を大切に、幼児期の遊びを通して、多くの教科と関連している体験があることを意識して学習活動を考える。ゼロからのスタートではない。

○スタートカリキュラムの作成に当たって

- ・合科的・関連的な指導ができる編成とする。
- ・日常とより関連性のある生活科を中心とした編成とする。
- ・学びや活動に必要性、必然性のある編成とする。
- ・幼小の接続を意識した編成とする。
- ・大単元から各教科等に分化していく編成とする。



◆作成支援ツール「サクスタ2」（日本文教出版）の活用

平成30年度小・中学校教員人権教育研修会実施要項

- 1 趣 旨 「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」のもと、「人権教育基本方針」及び「外国人児童生徒にかかわる教育指針」に基づき、人権教育の改善・充実を図るとともに人権教育の今日的な課題についての理解を深めるため、児童生徒の人権を尊重した教育の推進のための研修を行い、人権教育担当教員等としての指導力の向上と人権意識の高揚を図る。



- 2 主 催 兵庫県教育委員会淡路教育事務所

- 3 期 日 平成30年11月6日(火)

- 4 場 所 淡路市立志筑小学校
(〒656-2131 淡路市志筑1578
Tel: 0799-62-0051)



- 5 対象者
(1) 人権教育担当教員
(2) 児童生徒支援教員
(3) 新たな課題に対応した人権教育研究推進校推進教員
(4) その他希望する者 ※各校1名以上の参加

6 公開授業

2年 生活科

「竹の子作業所のステキをみつけたよ」

授業者 竹内 星渚

3年 総合

「人と人がささえあっているしせつ」

授業者 原田 皆子

6年 社会科

『水平社宣言』から『志筑小6の2宣言』へ」

授業者 正永 浩規



7 実践発表

『淡路市人権まちづくり基本計画』の具現化をめざす
系統的なカリキュラムの策定にむけて
志筑小学校 教諭 坂本 研二

- 8 講 義 「授業及び研修における人権教育資料の効果的な活用」

講 師 阿部 浩士 主任指導主事兼指導・事業班主幹

- 9 日 程 13:20 13:40 14:25 14:40 15:10 16:10 16:20

| | | | | | |
|-------------|---------------|----|--------------|-------------|----|
| 受付 (体育館) | 公開授業 (各教室) | 移動 | 全体会 (体育館) | 講義 (体育館) | 閉会 |
|-------------|---------------|----|--------------|-------------|----|

- 10 その他 ○当日の駐車場について： 志筑小学校運動場をご利用ください。

ホットひと息

第35杯

人権・生指担当

18.12.21 (金)



ご無沙汰です m(_ _)m

各学年版の『ホットひと息』は、機会あるごとに発信してきましたが、**全校版**は実に1学期末以来、**2杯め**です。

申し遅れましたが、1学期の全校版 **“地域の宝を発掘し、人権・総合学習の学びに、**では、おうちのみなさんから、各町内会・志筑地区には、また淡路市・淡路島には「こんないい地域の〇〇があるよ」という **“地域の宝、**を紹介していただきました。本当にありがとうございました m(_ _)m

初めての試みで、紹介事例は少なかったのですが、今後のとりくみにむけ、貴重なアイディア・意見をいただきました。すでに活かされているもの、今後、活かしていきたいもの…と、とりくみの検討をすすめているところです。

年度末までに**全校版**で、報告できればと考えています。

それではここから、**2杯め**の『ホットひと息』**全校版**をお贈りします(*^_^*)

志筑小 人権集会

～世界人権宣言70周年にあたって～

『世界人権宣言』が国連総会で採択された12月10日（1948年）を最終日とするこの週は、“人権週間”と定められています。この『宣言』は、第2次世界大戦の甚大な犠牲のもとに、平和を希求する世界中の人々によって創られ、採択されました。

その大戦から73年が過ぎましたが、『宣言』はことし**70周年**を迎えました。この年月、周年が延々と続き、世界に真の平和が迎えられるよう、日本中で、また世界中で、人権が大切にされる社会の実現をめざしてのとりくみがおこなわれています。

このような趣旨で、12月10日（月）に、志筑小でも人権集会にとりくみ、全校生で人権・平和への願いや思いを共有する場としました。

*フックレット『世界人権宣言』

(やさしいから人なんです展パート20実行委員会)より

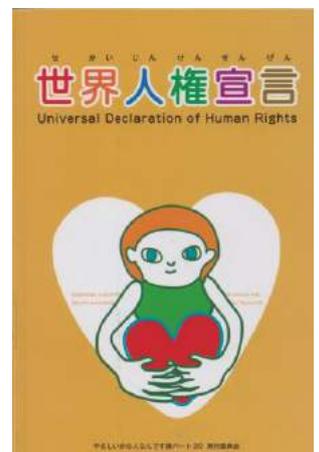
まず全校生で、『宣言』について、子ども向けの小さな絵本（を大きなスクリーンに投影）から学びました。

さて、わたしたちが生きていくためには、大切なものが身近にたくさんあります。水や食べ物など生きるために、正しく必要な物（もの）はもちろんですが、それだけではありません。

寝ること、お風呂に入ること、働くこと、学ぶことそして遊ぶことなど、必要なことがあります。

また子どもたちには、自分を育ててくれる大人の存在が必要です（必要なひと）。友だちや仲間の存在も大切です。

また、喜びや嬉しさ、悲しみといった気もちを表すこともです。ときには、怒りさえも（必要な気もち）。



さらには、思ったことを言ってもいいとか、話し合っで決めるとか、命を大切にするとか、必要な考え方や生き方も、なくてはなりません。まだまだあると思います。

これら大切なもの一つひとつが、人権であることに気づいてもらうために、この絵本をもとに学びました。そしてそれらは、決して奪われても奪ってはいけないものであることも。

少しだけ紹介しますと・・・1条に1枚ずつある挿絵を映し出し、簡単な説明を加えました。

第1条「みんな仲間だ」

生まれながらにして自由！かけがえのない命！その値打ちも同じ！
といったことが謳われています。

第2条「差別（仲間外れ）はいやだ」

生まれ、女、男、宗教、人種、ことば、皮膚の色などの違いで、差別してはいけない！ 意見の違いによってもです！

*学校でのいじめや仲間外れもそうです！

以下、いくつかをピックアップして読み聞かせました（説明略）。

第3条「安心して暮らす」 第4条「奴隷は嫌だ」 第5条「拷問（暴力）はやめろ」

第14条「人間らしく生きる」 第24条「大事な休み（ゆっくりお休み）」

第25条「幸せな生活」 第26条「勉強したい!？」 第27条「楽しい暮らし」

そして最後に、忘れてはいけないこととして

第30条「権利を奪う「権利」はない」

ほかの人の自由や権利を奪うことは、どんな人にも、集団にも、そして国にもない！ということです。



『宣言』について学んだ後、「人権が大切にされる学校とは？」を考え、『志筑小 人権宣言』とし、全校生・全職員で共有していくとりくみを、以下のように提案しました。

*志筑小のステキを見つけよう(*_*)

～「志筑小 人権宣言」の実現に向けて～

「わたしは、志筑小（学年・クラス含む）のココが大好き」と思えることは、その人にとって、人権が大切にされている場面であるにとらえ、それを全校生379人（+教職員）で寄せ集めます。

そのため、一人一枚ずつのシート（学年ごとの花卉や葉）に書き込んで、クラスまたは学年で発表（共有）し合います。*全校生でおこないたいところですが、時間の都合でm()m

そのシートで、志筑小学校（学び舎）を包み込んで“人権オフジェ..”を創り、その思いや願いを、全校生で共有することをもって、『志筑小 人権宣言』としようというとりくみです。そして、さらなるステキの実現をめざしていきたいと考えます。

この間、各クラスまたは学年集会がおこなわれ、そして一昨日の志筑小全校児童集会にひきつづいて、“人権オフジェ..”が披露されました。

*このつづきは、2まいめ～「ホッとひと息」第36杯へm()m



ホットひと息

みんなの想いや願いを一つに (*^_^*)

* 1まいめ～「ホットひと息」第35杯からのつづきだよ

“人権オフジェ”を披露する前に、379人一人ひとりが見つけた“志筑小のステキ”から見えてきたことや、気づかされた、また学ばされたことを紹介し、その想いや願いの共有を支援しました。

※ “ステキ”の紹介にあたって、集会では報告しなかったのですが、一部をピックアップし（■年■子と）記載しています（紙面の都合上、一部省略・編集等をしています。ご承知ねがいます。）

* **まず、こんなしづきっ子の、志筑小の姿がステキ**

○明るく、元気に、笑顔でニコニコしている…しづきっ子<多数>

○友だちというとうれしい、楽しい、おもしろい、幸せ…と思える志筑小<多数>

「みんなが一人ひとり元気に登校し、協力し合っている」(4年女子)

* **声かけをしてくれることがステキ**

○一人ぼっちでいたり、悲しそうにしていたりするとき

「いっしょに遊ぼう」「～しよう」とさそってくれた。<多数>

「一人ぼっちの子がいたらその子をさそって、みんなで楽しく遊んでいる」(2年女子)

○困っているときに

「だいじょうぶ?」「どうしたん?」「保健室へ行こう(連れて行ってくれた)」「がんばって!」と心配してくれた、助けてくれた、なぐさめてくれた、はげましてくれた、優しくしてくれた。<多数>

「やったね」「よかったね」とほめてくれた。<多数>

「友だちや先生が、すぐにほめてくれるから、みんなやさしい」(3年女子)

* **おこないもステキ**

○志筑小のあたり前(校長先生がよく朝会で話されます)をがんばった

「あいさつする」「スリッパをそろえる」ことができた。またがんばった。<多数>

「ありがとうや、ごめんなさいを言うことがステキです。ケンカしてもすぐに仲直りできるからです」(2年男子)

「全校生が、ルールを守れてきている」(3年男子)

○さりげなくしてくれた

「乱れているスリッパをならべてくれていた」「牛乳パックをたたんでくれていた」

「あいさつするとき手をふってくれた」など<多数>

○～しないことも大切

「友だちがマイナスことば(人の嫌がること)を言わないところがステキ」(2年女子)

「いじめを絶対にしない。そのために自分で心のブレーキをかけたらいいい」(4年女子)

* **いろいろな場面でステキが**

○授業中は当然

- ・さか上がり、九九、漢字、ローマ字などなど、真剣に、一生懸命に、初めてのことにチャレンジし、積極的にがんばっている。〈多数〉

「やったことないことに、ちょうせんするクラス」(1年男子)

- ・楽しい授業がいい
- ・わからないときに、友だちが優しく教えてくれた。〈多数〉
- ・自分からすすんで、大きな声で、発表できている。〈多数〉

「発表をまちがっても、せめずに、優しく教えてくれる」(5年男子)

「自分から手をあげて発表している。(まちがっても) 助けてくれる」(3年女子)

「発表が終わったら、いつも拍手してくれる。拍手で、安心できる」(5年女子)

「スピーチの時、きんちょうしなくてもいいと言ってくれる」(3年男子)

「自由に発言したり、考えたりできるクラスにしたいです」(4年男子)

※間違っても責められなかったり教えてもらったり、また拍手で安心できることなど、このような雰囲気が大切ですね(^^)!

○朝会・集会や、休み時間にも

- ・外で元気よく遊んでいる。男女関係なく、学年関係なく遊んでいる。クラス遊びも楽しい〈多数〉

「みんなの切り替えが早くできることです。朝会で話している人の方を向き、みんな静かに、真剣に聞いている人がとっても多いです」(5年女子)

○給食の時間でも

- ・残さず食べている

「給食をいつも残さず食べているのがいい。完食できるように、みんなが協力している」「1学期から完食をつづけている」(3年男子、他にも多数)

「給食を残さず食べるころもステキ」(1年担任)

* **やっぱり、何と言っても友だちとなかよし、仲間を大切にすることがステキ**

○子どもたちがいっぱいいて、にぎやか〈多数〉

「一人ひとり個性をもって、とってもにぎやかです。続けていきたい」(5年男子)

○優しい子が多い。友だちといると楽しい、おもしろい〈多数〉

○だれとでも、すぐ仲よくなれる〈多数〉

「友だちをつくれる学校」(1年男子)

「クラスみんなと、仲よくなれたからいいよ」(1年女子)

「2つの保育所の人たちで、学校ができて(志筑小に来て)、楽しいです」(1年女子)

○協力できる、関わり合える、助け合える、支え合える、励まし合える〈多数〉

「人を選ばない、みんなが安心できるクラス」(5年女子)

「分けへだてなく優しく接したり、困ったときに助け合ったりできる」(5年男子)

* **先生たちのステキも・・・ありがとね m()m**

「たくさん先生がいて、やさしい先生がいてステキ」(2年女子)

「先生の教え方がステキ。わからないところをわかってほしいから、くわしく教えてくれてすてき」(2年男子)

「友だちや先生と話す時、とてもしゃべりやすい」(4年女子)

「先生と生徒のコミュニケーションがとれていて、とっても笑っていられます。うるさい時もあるけど、楽しいです」(6年女子)

「学校の先生が優しい。校長先生おもしろい」(6年男子・女子)

「校長先生は、地震が来た時のために、災害のことや避難訓練のことを話してくれる」

(3年男子)

※裏面も見てね(_ -) ☆

* **そして先生たちから、子どもたちへステキなメッセージが(*^_^*)**

「こころ優しい仲間たちです」「困っている人をほうっておけないところがステキ」
「(前略)とっても優しい…まだまだあるけど、そんなクラスが大好き」「友だちはもちろん、時間やモノも大切にできるようになったところがステキ」「一人一人ちがっているから助け合える。それぞれの良いところも、弱さも全部、受け止めていってね」「やる気いっぱい、明るく元気いっぱい、ステキ」「お互いに思いやりをもって、仲よくしているところがステキ」「友だちを大切に、みんなが笑顔でいられる、日本一人を大切に学校にしていきたいと思います！」

* **こんなステキも(^_^)v**

○目標をもっている！ 意識している！

「日本一人を大切に学校をめぐして、がんばっている」<多数>

「人だけでなく、生き物や花も大切にしている」<多数>

「志筑小のいいところは、みんなめあてをもってがんばっているところ」(5年男子)

「一人ひとりが学年目標を意識している」(5年女子)

「全校生のお手本になれるよう、がんばっている」

<6年生多数>

⇒「行事があること、つくってくれていることがステキ」<他学年から>

※順序は前後しますが、「志筑小のステキを見つけよう」を披露した直後に、さらなるステキな志筑小をめざすべく、児童会主催の「クリスマス集会」で、楽しいひとときを過ごしました(*^_^*)



○いろいろな学習ができる部屋が(新館に)ある。花がいっぱい。運動場が広いなど、学習環境が整っていることも大切ですね m(__)m

「草をぬいて(引いて)くれる人がいるから、花だんとってもきれい」(3年男子)

「運動場が広くサッカーコートが2つあるから、あまりケンカにならない」(4年男子)

※人権を考える上で、こういった環境面が大切にされなければいけない！とわかっていたつもりでしたが、あらためて考えさせられました。そこに気づいてくれた子どもたちって、ステキ(*^_^*)

まだまだありますが、割愛させていただきます m(__)m



以上のように、子どもたちが見つけたステキを紹介した後、綴帳をオーブンし全校生379人で築いた「人権オブジェ」を披露しました。

そして、さらなるステキの実現をめざすことが、志筑小学校の人権を守っていくことだと確かめ合うために、全校生で『一つの明かりで』を歌いました。



* **志筑小いつまでも(*^_^*)**

“**人権オブジェ**”を例年どおり（2階南側・人権広場に）掲示し、さらなるステキの実現にむけ、今後の学校生活を送ります！

最後に、“**ステキ**”から、次のメッセージを書き留め、終わりにします m(_)_m

「たのしい、しづきが大すき」（**3年女子**）

「クラス（志筑小）の人権宣言にするために、一人ひとりが安心できるクラス（学校）にしたいです」（**4年男子**）

「学校全体が明るく、みんなや、先生ともよく話したり、遊んだりしてとってもいいと思います。このような志筑小学校が、ずっと続くといいです」（**6年女子**）

～研究会ご参加の先生方へのお誘い～

11月15日(金)は、講師を囲んで淡路島でもう一泊！ 大いに生活科・総合的な学習について語り・交流しませんか？

本校の全体指導をして頂いている甲南女子大学 村川雅弘教授から、志筑小学校の授業公開が終わった後で、三人の講師（村川先生、関西福祉科学大学の馬野範雄教授・武庫川女子大学の酒井達哉准教授）、志筑小の職員（可能な先生）と、全国各地より参観にお越しいただいた先生方とで、美味しい料理とお酒を酌み交わしながら、熱く語り学び合える夕食交流会をやりましょう！！と、ご提案をいただきました。

そこで、志筑小学校長の山本が自信をもって下記の通り計画いたしました。つきましては、振るってご参加いただけますようご案内申し上げます。

尚、当日は朝から國學院大學人間開発学部初等教育学科教授の田村学先生に淡路にお越しいただき、研究会にご参加いただくと共に、夕食交流会にご参加いただけます！！

記

1. 宿泊・交流会会場（志筑小より徒歩約5分）
淡路島 津名ハイツ 〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 162
Tel 0799-62-1561
2. 費用
宿泊1泊2食（夕食飲み放題付き）11420円（税込み）
*夕食交流会のみの参加
料理代+飲み放題 7000円（税込み）
*料理は四季会席のプランです！
3. その他
 - ・現在定員を先着50名としております。
（第3次締め切り 10月11日（金曜日）
申し込まれる方は、下記にご記入の上、FAX(0799-62-0016)にてお申込みください。
*お問い合わせや、Faxから1週間経っても申し込み完了の連絡がない場合は、志筑小校長 山本までご連絡ください。（志筑小学校 0799-62-0051）宜しく願いいたします。



講師を囲んで淡路島で交流会ともう一泊 申込書

FAX 申し込み先 (0799-62-0016)

問い合わせ ☎ 0799-62-0051

メール申し込み先 tetsuya.yamamoto@awaji.ed.jp 淡路市立志筑小学校長 山本哲也まで

申し込み表（1名～2名様用）*3名以上で申し込まれる場合は、欄を増やしていただいても構いません。

| 県 | 学校名 | 職 | 氏名 | 参加は○・参加しないは× |
|-----|-----|---|--------|--------------|
| | | | | 1. 交流会 2. 宿泊 |
| 連絡先 | 電話（ | | ） メール（ | |
| | | | | 1. 交流会 2. 宿泊 |
| 連絡先 | 電話（ | | ） メール（ | |

通信欄